

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500978		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	群馬県太田市龍舞町5655		
自己評価作成日	令和3年6月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中で、安全第一に利用者様が過ごせる環境を目指しています。その上で利用者様が笑顔で健やかに暮らせるよう努めています。食事を楽しみにしている利用者様が多く、希望のメニューを取り入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和3年11月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍であっても、大泉高校の生徒との交流や散歩途中の挨拶、地域住民が参加する避難訓練を通じて、地域との関係性を保ち続ける取り組みをしている。地域とのつき合いはお互いに意思がないと続かず、事業所にとっても第三者である外部の目が入ることは運営上大切なことといえる。また、居宅サービス計画書(1)の「利用者意向欄」に利用者の言葉がそのまま記述され、本人の姿が思い浮かぶようなものになっている。3ヶ月ごとの見直しの際も、その時の本人の思いや意向がそのまま記述され、計画書にその人らしさが出ている。地域と支え合い、その人らしさを重視することは地域密着型サービスの基本理念であり、事業所、ホーム長、職員の理念に沿った取り組みがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に管理者、職員で理念を唱和し、理念を共有して実践出来る様にしています。	家族や地域といった横のつながりを大事にし、コロナ禍後は利用者が外に行ける環境を作りたいと、利用者の思いを尊重している様子から、ホーム長は、職員は理念を理解していると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練などの行事参加を近所の住民に呼びかけたり、近隣の高校の生徒が野菜を売りに来た際などは玄関で対応しています。	コロナ禍ではあるが、近隣の住民にも参加を呼びかけて避難訓練を実施している。また、長く続けている高校生との交流や散歩で地域の人に出会うこともあり、地域との繋がりを保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料を配り周知してもらえよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止対策として運営推進会議は行なえておりません。	コロナ禍にあり、書面開催となっている。これまでの項目に沿った議事録を作成し、家族に配付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の疑問点はその都度、市町村の担当に相談しています。	法人の課長が担当し、市担当者と連携を図っている。新しくホーム長になり、市担当者にも挨拶し、今後関係性を築いていくことになる。介護保険の更新代行と認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で定期的に学ぶ機会を設け、利用者様に対し拘束しないケアに取り組んでいます。	玄関は施錠している。利用者の希望があり外に出る時は、その都度付添って対応している。スピーチロックについては、職員会議で議題に挙げ、話し合い、身体拘束のないケアに繋げている。	玄関の施錠は身体拘束にあたるので、どうにか工夫して開けられないか、検討してみたいか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で定期的に学ぶ機会を設け、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で話し合い、学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明に十分時間をとり、分かりやすく丁寧に説明しています。改定時は電話や直接説明し理解を得られるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、ご家族来苑時は積極的に声掛けしやすい環境を作るようにしています。	意見箱を設置しているが、投函はない。家族は窓越しで利用者の様子を見ているが、近くで会いたいという希望がある。利用者からは孫に会いたいという希望や食べたい物、嫌なことを聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、要望など話しやすいように個別で聞く機会を作っています。	職員会議や申し送りで業務について、利用者の状況等を共有している。また、利用者の過ごし方や睡眠時間等に対する提案があり、話し合いながら日常のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を年1回行い、個別の評価、面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染防止対策として現在行なっていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後コロナが落ち着いたら、法人内の施設と交流する機会を設けたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前も面談にご本人様が来れない場合には、管理者がご本人様を訪問して相談にのれるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様の要望や不安を聞くために面談し、入所後も相談してもらえるような声掛けをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にはご本人様・ご家族様の要望に添えるよう、必要な支援の説明や紹介が出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と適切なコミュニケーションを多く取れる様に心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との適切なコミュニケーションを多く取れる様に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた事を生活の中に取り入れられるようにしています。	入居時に馴染みの物を持ってくることを伝えられている。書道、読書、散歩等の趣味の継続や口紅、手鏡を持っていて化粧を続ける利用者が、在宅時と変わらぬ生活を送れるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わり合えるように、時には仲介しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、要望がある時は対応する事を伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、ご家族様の希望をもとに毎月カンファレンスにて話し合い、希望に添えるようにしました。	日常接する中で、利用者が発する言葉や表情、仕草から思いや意向の把握に努め、その思いを汲んで支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを多く取るよう心掛け、話やすい環境を作るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りをしっかり行い、小さな変化にも対応出来る様現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の要望をもとに、カンファレンス、日々の申し送りにて意見交換を行い、支援に反映出来る様にしました。	毎月モニタリングをし、カンファレンスをしている。3ヶ月ごとに介護計画の見直し、変更、更新時には担当者会議を開いている。ケアマネジャーに代わり職員が家族に必要な事項を伝えることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	正確な記録をし、情報の共有をして支援を実施し、介護計画の見直しに活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望を把握し、対応出来る様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ蔓延防止により、外出は控えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の要望を把握して主治医、訪問看護と24時間適切な対応・医療がうけられるようにしています。	主治医の選択ができることを説明しているが、入居を機に全員が協力医に変わり、月2回の往診を受けている。必要に応じ月1回の歯科の訪問診療があり、専門医への受診は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問、電話にて24時間対応で連絡をとり、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の現状把握に努める為、病院、ご家族様と情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期にご家族様、主治医、看護師、管理者、ケアマネと話し合い場を設け、職員間でも情報の共有をしています。	事例もあり、希望があれば看取りをしている。現在1名、看取り支援をしている。利用者の状態によって、家族の希望があれば面会も受け入れている。職員会議で看取りについて勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議にてマニュアルの再確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署より総合避難訓練の指導を受け、近隣の方にも参加してもらえるように呼びかけています。	消防署立会いの避難訓練と自主訓練を実施している。ハザードマップによる地域特有の災害はない。米、レトルトカレー、インスタント麺、餅、水、排泄用品等の備蓄がある。	9名の生命を守るため、毎月1回、火災だけではなく地震等災害を想定した自主訓練を実施してはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけることのないように、適した声掛けを日々行うようにしています。	レクリエーションの際、声かけをしても返事が思わしくない場合は、個別に対応している。また、利用者の意に沿って同性介助にしたり、相性を考慮した座席配置をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解しやすい様に説明し、選択できる様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを尊重して支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の意見を取り入れ、ホーム内でも身だしなみやおしゃれが出来る様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理のない範囲で食事の片付けを行っています。	献立は利用者の食べたい物を取り入れ、食材を購入している。10時の飲み物は利用者が選択している。誕生会や行事に合わせた食事、伝統食を提供している。テーブル拭きの支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合う食事量、食事形態にて提供し、食事量、水分量は職員が確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夜間は義歯洗浄をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の排泄パターンを参考にし、トイレ誘導や声掛けを行い、失禁を減らせるようにしています。	利用者の排泄パターンを把握し、定時誘導の声かけをしている。日中はトイレ使用であっても、夜間は別の対応が望ましい場合は、職員間で検討し、排泄の自立継続に反映させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや乳製品、食物繊維の多い食品をメニューに取り入れています。出来る限り毎日の体操、運動を実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けにて希望を伺い、無理の無い様に入浴しています。	日曜日以外は入浴の用意をし、週2回入浴している。入浴時間はその日の人員体制によって午前、午後と変わるが、声かけをして入ると希望する利用者には対応している。入浴剤の香りを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その都度の希望にて休息してもらっています。安心してもらえるような声掛けを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬専用のファイルを作り、職員全員が分かりやすい様にしました。薬の変更時には随時申し送りをするようにしました。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内でも飾り物の作成やレクリエーションを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ蔓延防止により、外出は控えています。	現在、外出は難しいが、個別で散歩に行ったり、ドライブに出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことを希望している利用者様には少額 居室に保管してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時にはいつでも電話が出来る様になっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りを変え、その時々々の季節を味わえるようにしています。	共用空間にはテレビ、ソファを配置し、大人の空間であることを意識しながら、手作りの作品、季節の飾り、カレンダー等を掲示している。また、感染予防のため、定期的に換気をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が自由に過ごせる様な空間を作るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使う物は馴染みのある昔から使用していたものを入居時に持って来ていただくよう伝えていきます。	家具や寝具、テレビ、仏壇、ぬいぐるみ、編物をするための毛糸、化粧品等を持込んでいる。換気後には室温調整をし、自分らしく、居心地よく過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不必要な物、危険な物は置かないようにし、安全管理に努めています。		